

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はびりすサポートみなみ		
○保護者評価実施期間	令和6年11月に開所の為、保護者評価については令和7年10月までに実施予定		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年3月30日		～ R7年 4月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員への研修の機会を設け、療育の質向上を図っている。基本的には、担当となる職員が中心となってプログラムを立案し、定期的に心配なケースを中心にスーパーバイズを行う形や職員ミーティングでの症例検討を行っている。	職員により習得度が違う為、一律に指導を行うことが難しい為、職員が相談したいケースを自主的に持ってきてもらうようにしているが、保護者とお子さんが来園された際の表情や療育中の様子により、通常と異なる場合にはすぐに状況を見に行ける場所で業務を行うようにしている。	現在は、週に1回の症例ミーティングを行なっているが、勤務日が合わず参加できていない職員もいる為、研修内容や状況が共有できるように記録を残しておく方法を検討したい。また、習得度に合わせて週に1回などの職員との定期ミーティングの機会を設け、相談しやすい環境づくりを行いたい。
2	それぞれの職員が専門的領域に基づいた療育ができるように日々試行錯誤し療育実施に努めている。療育の実施後も療育中のお子さんの様子を職員室で共有し、担当以外の職員も耳にする環境があることで、経験を深める機会にもなっている。それぞれの職員が発達支援の質を高める工夫を自然に行うことができていると感じる。	言語聴覚士が複数名いることで、同じ職種からのアドバイスを受けやすく、幅が広がりやすい環境にある点は非常に利点であるように感じる。悩みを抱えても療育時間に同席できる環境はこれからも継続をしていきたい。	療育実施時間以外にケース検討の時間や個別相談の時間を設けているが、今後は検査分析や報告書の書き方などテーマ別の研修を予定しており、現場のニーズに沿った関わりを提供していきたい。
3	保護者支援としての家族プログラムの提供について、現在試運転中であるが、令和6年度はペアレントトレーニングの実施を試みる事ができた。法人内の経験者によるフォローの中、3ヶ月の実施であったが保護者の方が家庭での実践に取り入れることが非常に上手であった為、短期間で大きな行動の変化が得られた。	当園でのペアレントトレーニング立ち上げに際して、法人内に所属する経験のある臨床心理士がスーパーバイズを行い、フォローを提供することができた。実際のご家族を通して準備から立ち上げの一連を経験することができたことは参加した臨床心理士としての学びは非常に大きいものがあつたようである。	臨床心理士は同職種が同じ職場にはおらず、法人内でのやり取りとなってしまう為、経験を共有する機会が言語聴覚士に比べると少ないように感じる為、方法は今後も模索していきたい。また、保護者支援という点では「就学支援」「集まろう会」など、令和7年度は積極的に取り組みを行う予定である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家庭での生活空間と同じような作りである為、福祉施設としての段差解消などが十分でない点や、予定している工事の着工の遅れなどがあり、階段の手すりなどがついていない状況があり、対策が必要な状況がある。	一軒家を使用している為、家庭環境と同じような環境である点では、通う際に馴染みやすいことにつながると考えているが、2階につながる螺旋階段の上り下りや転倒防止は対策が必須である。	工事箇所について再度工務店と打ち合わせを進めて安全対策を行う。職員とも危険箇所の確認を随時行い、安全管理に努めたい。
2	第三者評価、保護者向けの評価については、開所より1年を迎えていない為、実施をしていない状況がある。親子通園の為、毎回の通園に両親のどちらかが同伴される為、意向を伺いやすい状況ではあるが、保護者が担当者以外にも気持ちを話すことができる環境づくりや体制づくりは課題であると感じている。	こどもの成長への不安や療育内容について疑問を感じた時に相談ができる場所が複数あることが重要であると思われるが、担当固定制としているため、担当を複数年継続して持つ場合が多く、担当者以外の職員がご家族の意向をきめ細やかに汲み取る面談の機会が必要であると感じる。	担当者以外が療育に同席をする機会や児童発達管理責任者が療育に入り定期的に顔を合わせる機会を設けているが、業務の都合で時間帯や曜日などにより面談できている回数に偏りがあるため、担当者からの声があがらない場合でも利用者との面談回数を管理して意向確認に努めていきたい。
3	地域交流、保護者会開催、行事参加については、開所以来方法を模索しているところであり、防災マニュアルや訓練の実施、安全計画などについては、すでに実施しているものやこれからの計画等について、職員への情報伝達に課題を抱えていると感じている。	当園に通う子ども達は地域に所属母集団をもつ並行通園である。地域との交流機会は所属施設で行われており、所属集団での交流支援が重要であると考えている。保護者同士が交流する機会としては、小集団療育での同席している場面などがあるが、ゆっくりと話す時間などは確保できていない状況がある。	保護者の交流については、今後は保護者だけを集めての学習会の開催などを予定している。複数の事項について、事業所での実施状況や予定を職員間で伝達と共有ができていない点に課題があると感じた。今後は職員ミーティングでの共有を図ると共に、今後は保護者に対しても情報をよりわかりやすく共有できる方法を模索していきたい。